

質的三層分析について

話し合いを形式的な特徴、会話上の機能、意味的な内容の三つの側面から分析し、話し合いが有効だったかを確認していく。

【形式的な特徴について】

《冒頭の特徴》

20S から 28H までの冒頭部分では S が専ら指名している。S の指名に答えている。そして、連続発話や同時発話はほとんどない。また、冒頭の口調は「です・ます」調になっている。

- | | | |
|----|-----|-------------------------------------|
| 20 | S : | では、え：：若山さんから／／お願いします。 |
| 21 | W : | ／／あかし？ |
| 22 | W : | はい ((笑い))、…中略…以上です。 |
| 23 | S : | はい、あり／／がとうございました。 |
| 25 | S : | では、え：：、桑原さん。 |
| 26 | K : | はい、(4) 以上です。 |
| 27 | S : | (3) はい、ありがとうございました。(10) はい、じゃあ星野さん。 |
| 28 | H : | はい。 |

《連続発話や同時発話、くだけた会話》

話し合いが進むと連続発話や同時発話が多くなってくる。例えば連続発話が現れている箇所は、71、72、73、77、78 である。そして、同時発話が現れている箇所は 72、73、74、75、76、77 である。また、自然な笑いが起こっているのは、74「はははは」、75「ははは」である。そして発言者に対して、W や S はあいづちを打つことが多い。また、口調も「です・ます」調からくだけた会話になっている。

- | | | |
|----|-----|---------------------------------|
| 71 | H : | イメージだったんですよ、最初＝ |
| 72 | S : | ＝あ：： |
| 73 | W : | ＝でかいね／／：： |
| 74 | S : | ／／はは／／はは ((笑い)) |
| 75 | K : | ／／ははは ((笑い))／／は。 |
| 76 | S : | ／／おもしろいね：：。へえ：：／／、おもしろい。 |
| 77 | W : | ／／地球を、あっ、地球か＝ |
| 78 | H : | ＝で、まあ最初つるつるとかで丸い石み／／たいなイメージがあって |

《「です・ます」調の口調について》

話し合いのまとめに入ったプロトコル 290 から 297 では、S が指名しそれに答えていく形を取っている。その時に口調は再び「です・ます」調でフォーマルになっている。

- 290 S : じゃあ若山さん。
291 W : はい。…。はい、以上です。
292 S : では、桑原さん。
293 K : はい。…。以上です=
296 S : =はい、じゃあ星野先生。
297 H : はい、…と思うようになっています。はい。

《話し合いの回数》

話し合い全体の発話数は、T41 回、S99 回、W116 回、H37 回、K18 回と偏りがあった。

話し合い全体をみて、同時発話や連続発話が多く見られ、自由で闊達な話し合いが行われていたといえる。

【会話上の機能】

《司会を中心としたフォーマルな話し合いの機能》

15T は S を司会に指名している。そして、司会から指名されて発言する権限が与えられ、自分の考えをいい終わると以上ですと述べていることから、フォーマルな形で司会を中心とした話し合いが進められている機能がある。

- 15 T : それでは、突然で申し訳ないのですが、(3) 清水さんから司会をしていただければありがたいんですが=
16 S : =はい。
20 S : では、え：：若山さんから／／お願いします。
21 W : ／／あたし？
22 W : はい、…中略…はい ((笑い))、以上です。
23 S : はい、あり／／ありがとうございました。

《他者の発言に対して同意する機能》

55W や 57W、59W、60W、61S の発話は、他者の発話に対して同意する機能になっている。

- 54 S : 「ふりむいた」の後のびっくりマークここだけ／／だな：：というのも改めて気がついたし：：
- 55 W : ／／あ：：。
- 56 H : 「さわってみようかな」から：：「あるきはじめるかあ」まで、(2) の一連というか、それ全てが本当は悪いことだったのかな。
- 57 W : (3) あ：：／／。
- 58 H : ／／ずっと悪いことをしてて、誰か、が振り向いた時に：：、まずいって思っどきんって思ったってのが一番最初の、／／イメージだったんですけど：：＝
- 59 W : ／／ふーん。
- 60 W : ＝／／ふーん。
- 61 S : ＝／／ふーん。

《他者の発言に対して評価、情報要求する機能》

また、73W や 83S の評価や 84W の他者の発言に対する情報要求する発話も見られる。

- 71 H : こう、地球：：(2) この最初遊んでいる遊んでいるというか：：、さわってみようかなとか：：、おしてみようかなといっているのは：：、こう地球を、(.) ポンポン ((笑い)) とやっているイメージだったんですよ、最初＝
- 73 W : ＝／／でかいね／／：：
- 78 H : ＝で、まあ最初つるつるとかで丸い石み／／たいなイメージがあって
- 81 H : で、押してしまった (.) ために、(2) 地球に立っている建物が壊れがらがらって壊れたり、だとか＝
- 83 S : ／／おもしろいね：：／／へえ。
- 84 W : ／／怪獣と／／か？

《話題をふる人が司会から他の人へと変わった機能》

話し合いが進むにつれて、司会以外の W が他者の発言したことについて 112W で自由に質問をし、話題を提供している。話し合う内容を決める司会の権限が他の人に移ってきている。

112 W : 桑原さんもあれだよな、秘密にしていたことがばれて、どきんみたいな／／イメージでしょう？

113 K : ／／はい。はい。

《司会以外の人で沈黙を破る機能》

沈黙が続いた時に、話し合いの初めでは司会の 32S が沈黙を破り他の人が話しやすいように雰囲気をつくっていたが、話し合いの後半で沈黙が続いた時には、168H が沈黙を破って話をしている。沈黙を破る役目が司会から他の人に移っている。

31 S : (3) はい、それでは、(3) どうでしょうか。なんか他の人の意見に対してまあ感じたことなり：：、まあ疑問なりあれば、(2) ここで出してもらいたいと思いますかどうか？

(14)

32 S : あのね、(.) わたじゃ、私からしゃべってもいい？

167 S : (5) どう？それに関して。

(38)

168 H : う：：ん。ちょっと勘違いかもしれないんですけど。

《メタレベルでコミュニケーションしている機能》

また、170H や 172H の発話から、相手が理解しているかを確認しながら会話を続けている機能が見られる。つまりメタレベルでコミュニケーションをしている。

170 H : その「えへへ」と「どきん」の上というか、これでいうと「だれかがふりむいた」と「たおれちゃったよな」というのは、(1) た他人からというか、(3) わかります？

171 S : うん。

172 H : 最初の(.) 例えばさわ「さわってみようかな」から、「もういちどおそうかな」っていうのは、(2) 自分が(.) しようかな (1) でも「たおれちゃったよな」っていうのは、(1) たおれちゃった／／、(1) あっわかります？

173 S : ／／うん。

《話し合いが煮詰まった会話の機能》

司会 S が 191 で、どのへんでしめればいいのかを T に質問しているが、これは S がグループでの話し合いが深まって終わりにしてもいいのではないかと提案した機能をもっている。そして、192 で、T が別の視点から話し合いをするように指示を出しているので、話し合いの進行を進める司会は、T の指示の元で司会をしているというフォーマルな形を取っている。

191 S : (6) そっか。これ、どのへんでしめればいいんですか？

192 T : (1) 作中人物の感情の抑揚ってことに関して、そのあたりいかがでしょうか？＝

195 S : ＝はい、(3) 感情の抑揚ね？

話し合いの中で会話上の機能をもつものが多かったので、話し合いは有効だったと考える。

【意味的な内容】

《メタレベルで理解しようとしている内容》

119S は、W が 22 で述べた、詩全体が幼い子どものイメージということをメタレベルで理解しようとしている。他者の発言を理解しようとしている。

119 S: 若山さんのさあ、その、解釈がすごくおもしろいなと思いながら聞いていたんだけど、**もうちょっと詳しく／／その情景を教えてもらいたいんだけど＝**

また、S は 128 で W の考えを言葉に表し、メタレベルで理解している。そして W が 129 で、128 の S の発話は正しかったと評価している。

128 S: ああ：：。なるほど／／こう**初めて立って初めて見える世界ができて：：、／／**
そこでこう、(2) うーん、見える世界の中でこう、他の人がふりむいてこう、(2)
／／で、新しい世界のなんかこう始まりみたい／／な
129 W: ／／う：：ん、／／ああ：：、ああ：：、／／うーん、／／始まりみたいな、
そうそうそういう感じですね、人とかかわりの始まりみたいな
130 S: ああ：：なるほど

《メタレベルでのコミュニケーション》

そして、W が 122 で情景を詳しく説明した後、S が 123 で要するにと W の考えをまとめている。つまり、W の考えを S が確認するとともに、他の人に W の考えをどういうものだったかを説明しているので、メタレベルでのコミュニケーションが起っている。

123 S: **要するに**こう赤ちゃんが／／なんか成長していく過程のことを、こう：：表している詩／／詩って**いうことなんですよ**ね？

《認知的変容の起こり》

140 で詩に大きな場面展開があるといっていた S は、212 の T の場面が前半と後半で変わるのかと問いかけを受けて、S は 213 で何かしらつながりがあるのではないかと疑問を提示している。そして 215 で詩の前半部分と後半部分には何かしらつながりがあるため、場面は展開しているが全く別の場面になったといえないというふうに、認知的変容が起こっている。

140 S: おっきな場面展開がこうあるでしょう? / / で、その時に : : 、なんか : : この、う : : ん : : 、はにかんでいるようなその (3) シーンから : : 、 / / ぱっと一辺するってこと…中略…

212 T: (7) やっぱ、場面は変わっているんでしょうかね? 前半の部分と後半の部分で

213 S: たださ、何か倒れるっていうことと、引力を感じるってことは何かつながっていないのかね?

215 S: そのほら、がしゃって倒れたことに関して : : / / 、引力を感じているのか : : 、全く場面が変わって、その : : 、別なことをいっているのかってのがちょっとわからないんだけど、でも : : 、そこをなんかこう隣り合わせにしているのは / / 何か意味合いがあるのかなっていう / / 、その : : 何かこうがしゃって倒れることによって、ああ、(1) その : : (2) い引力を感じてるっていうかさ、うん、っていう、なのかな : : ? って俺は最初思ったけど、まあ場面は展開しているんだろうけど、全く別なものになったのかどうかっていうのは何ともいってみようがない、かな? =

《メタ認知的変容》

話し合いでは、メタ認知的変容が起こっていた。

メタ認知的理解をしている発話として例えば 135S が挙げられる。それは、他者の発言を聞くと、その考えが合っているように思えて、なかなか自分の考えがまとまらないことをいっていることから、他者の発言を聞いて理解しているからである。

135 S: 何をいいたいのかなんて全然わからなかったんだけど、あの若山さんの意見を聞けば若山さんの意見があっていると思うし、二人の意見は二人の意見ですごくなるほどと思うし、なかなか自分の意見がまとまらないんだけどさ : : =

また、話し合いの初めで、一番大切なオノマトペを「ひたひた」と答えていた 22W は、最終的には 291W で自分の考えを変えた。変えた理由として、H の「どきんの前にびっくりマークがついている」という考えや K の発言を聞いて自分の考えを変えたことを挙げている。このことから、W は認知的変容だけではなく他者の発言をふまえて考えが変容しているのでメタ認知的変容も起こっている。

291 W: = はい、私は自分の意見を変えて、えへへ ((笑い))、「どきん」にやっぱり「どきん」かなと思いました。え : : っと、星野さんや桑原さんのをちょっと聞いていて、題名やっぱり題名であるっていうのが一番、強いかなと思いましたし、こうびっくりマークがねえ、直前についている星野さんの意見もなるほどなあと思って、あと、感情の高まりが一番どこで高いかっていうと、やっぱりそのどきん、なんだろうかなと思いました。

215S の発言を受けて、306H もメタ認知的変容が起きている。

306 H : はい、えっ、自分も全然、最初前半部分と後半部分っていうのは、あんまり、あまりにというか、違うことをいっているのかなって思っていたんですけど、清水さんの意見というか、こう、実はつながっているんじゃないかっていうのを聞いて、あっ、もしか、そうそうそういわれればそうかなっ、ていう部分が一番強いです。で、二つの詩：：という二つ、二つの部分というより、実は一つの大きい詩なんだなあ／／：：と、思うようになっています。はい。

以上から、話し合いでメタ認知的変容が起こっているので、この話し合いは有効だったといえる。また、同時発話や連続発話が多かったり会話上で機能をなすものや意味的な内容が矛盾することなく行われていたので、話し合いは有効だったと考える。